

7月の果実の見通し

平成30年6月29日現在
山形県東京事務所

区分 品目	主産地	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		販売見通し
		前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込	5カ年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
おうとう	山形 北海道 など	688	50%	479	1,338	やや 安い	1,476	571	83%	本年は開花期前後の好天と気温高で主産地となる山形県を中心に生育が大幅に前進傾向となっている。6月半ば過ぎには山形産の「佐藤錦」がピークとなり、秋田産も入荷開始となった。6月最終週には山形産「紅秀峰」も始まり、6月末にかけても潤沢な出回りとなる。7月は月初より北海道産の入荷も始まるが、山形産のピークはすでに過ぎており、数量的にも限定的な販売となる。
もも類	山梨 福島 など	5,777	110%	6,280	637	安い	513	2	0.03%	山梨を始め各産地とも開花が早く生育も順調に推移したことで例年より大幅に早い出荷となる。中心となる山梨産は生育が良く、早場産地では「日川白鳳」が6月中には出荷終了となる。福島産の早生種も一昨年より若干早く6月末より出荷が始まる。長野産も「海の日」以降に出荷ピークになり、山形産も7月下旬には出荷が始まる。出回り量は多く、少なかった前年比では価格安の展開。
ぶどう類	山形 山梨 など	1,151	110%	1,348	1,436	安い	1,123	483	42%	「デラウェア」は島根産が6月で出荷ほぼ終了。7月は山形産が中心となって「海の日」前に出荷ピークに入り、山梨産の露地物も例年より早く始まる。大房は露地物の生育は順調なもの、ハウス物においては思いのほか生育が進んでいないため、7月上旬の出荷量は各産地が増量となり、7月いっぱい潤沢にある。山梨産の巨峰はハウス物から露地物へ移行し、7月下旬から出荷ピークに入るが、今年は気温が高い情報があり、高温障害による着色出遅れでピーク時が変わる可能性がある。
すいか類	長野 山形 など	11,305	95%	13,591	222	やや 安い	176	1,967	17%	6月中～下旬は着果不足と曇天によって各地とも出荷量が少なかった。7月上旬までは鳥取産が中心。7月に入れば長野産も出荷が始まり、新潟産はダラダラとした出荷が続く。中旬からは山形産の出荷が始まり、神奈川県は「海の日」過ぎより始まる。販売状況は梅雨明けの時期次第で大きく変わるが、東北産地の生育遅れで7月後半が品薄・高騰した前年と比べれば入荷減・価格安を見込む。それでも猛暑予報から平年と比べれば高めの水準。
メロン類	千葉 北海道 山形 など	3,344	90%	4,112	475	並み	400	817	24%	関東産露地メロンはいずれも作柄が良く、前倒し気味の出荷が続いている。茨城産はアンデス・クインシー・タカミともに6月いっぱいほぼ終了となり、7月は山形産のアンデス・パンナ・クインシー、千葉産タカミ中心の販売。6月下旬からは夏のギフト需要でアールスの引き合いが強まり、価格も緩やかな上げ基調となる。北海道産赤肉系品種も引き続き人気が高く、メロン類全体にしっかりとした価格で推移しよう。

引用資料:「東京都中央卸売市場における果実の品目別取扱実績」(青果物情報センター)、果実の入荷・市況見通しについて(東京青果株)

入荷量について:「0」はラウンドして1tに満たない入荷があったもの。「-」は本県のデータがないもの(入荷がないか、又は少なかったためにその他の産地に含まれる)